

令和7年5月2日

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟（知的）

2025 Virtus 世界陸上競技選手権 日本代表選手選考に関する異議申立へのご回答

2025 Virtus 世界陸上競技選手権の日本代表選手選考に関し、異議申し立てについての当連盟の回答を本書にてご連絡いたします。

1. 強化指定記録と派遣基準の整合性について

強化指定記録は、将来的な競技力育成および支援対象選手を特定するための指標であり、国際大会の派遣基準とは役割・目的が異なる制度です。

一方で派遣標準記録は、「当該大会においてメダル獲得が現実的に見込まれる選手」を選出するために設けているものであり、実績と国際競争力を重視して設定されています。

そのため、強化指定記録を満たしていても派遣されない例や、逆に強化指定記録未達でも派遣基準を満たすことで選出されるケースは、制度の目的上、必然的に生じ得るものであり、不整合ではなく目的の違いによる運用差です。

2. 派遣基準の統計的根拠について

派遣標準記録の設定にあたっては、ご指摘のようなZスコアおよびパーセンタイル分析も参考にしつつ、2023年グローバルゲームズにおける各種目の2位記録を主な基準とし、達成率や記録分布の実態に応じた補正を行っております。特にご指摘のあった400mHや200mに関しては、400mH：派遣標準記録（56.47秒）は、過去の優勝記録や出場者の記録分布に基づき、出現確率の低さ（ $Z=-1.34$ ）も考慮の上で設定しています。

200m：派遣標準記録（22.06秒）は、メダル獲得予測タイムと一致しており、競技実態を反映した妥当な水準と評価しています。一方で、5000mなどの長距離種目においては、国内競技レベルが相対的に高いこともあり、強化指定記録が非常に厳しく設定されている反面、派遣基準が比較的緩やかに見える構造もあります。これらは種目の特性、国内外競技水準、エントリー数、実績を複合的に加味したものであり、不合理な運用を意図したものではありません。

3. 例外条項の運用について

「派遣選手として対象期間中に強化指定選手相当と認められた者も対象とする」旨の規程は、けがや回復途中などにより、指定期間中の記録での判断が困難な場合、急成長を示す若手選手の選考機会を確保する場合など、特殊なケースにおいて柔軟な判断を可能にするための補完的な規程です。

この運用にあたっては、選考委員会の内部で基準を持ち寄り、合議により慎重に判断を行っております。したがって、恣意的な選考が行われることのないよう、体制としても十分な配慮と確認体制を設けております。

今後とも、日本パラ陸上競技連盟の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。
貴重なご意見に重ねて感謝申し上げます。

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟（知的）